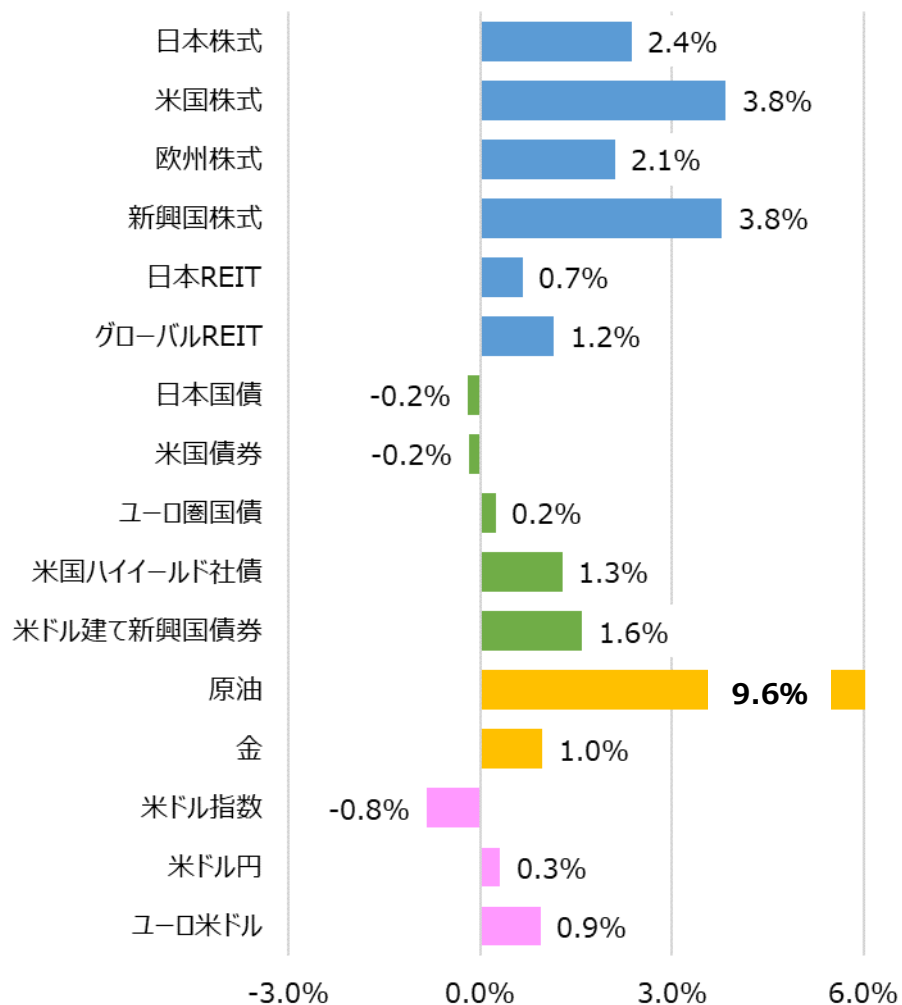




# Weekly Market Review

期間：2020年10月5日～10月9日



## 【日本株式】

新型コロナウイルス（以下「コロナ」）感染による体調悪化が懸念された**米トランプ大統領の早期退院で政治空白に対する不安が後退し**、同氏が分野を絞った経済対策法案の議会承認を要請したことや、米副大統領候補のTV討論への評価などから投資家心理が楽観に傾きました。TV討論では民主党候補が優勢との見方が支配的になり、**大統領・議会選挙で民主党が地滑り的な圧勝を収めるとの観測**から選挙を巡る不透明感が後退しました。

## 【米国株式】

トランプ大統領が追加経済対策協議を大統領選後まで凍結すると表明したことで、景気回復の失速が懸念されましたが、その後に、**航空業界や中小・零細企業向けの雇用支援策や家計への現金給付など分野を絞った経済対策法案の承認を議会に求めたこと**で、市場心理が改善しました。ISM非製造業景況感が予想を上回る改善となったことや、失業保険統計で新規申請件数、継続受給者数ともに前週から減少したことも相場の追い風になりました。

## 【欧州株式】

米景気対策やECBの追加緩和策への期待から買いが優勢でした。ただ、**7月に合意したEU復興基金案の資金分配方法を巡って内部での対立が明らかになり**、来年初からの稼働に懐疑的な見方が強まったことや、ドイツ鋳工業生産が予想外に悪化したこと、**イタリアやスペインで行動制限の強化が決定**されたことなどが重荷でした。

## 【新興国株式】

米経済対策協議の進展や、**米大統領・議会選で民主党が圧勝し、米中貿易摩擦が沈静化するとの見方から**、**新興国資産に資金が流入**しました。中国の財新非製造業景況感指数が堅調な伸びを示したことも買い安心感に繋がりました。アジア新興国の他、約1兆5000億円規模の官民協働インフラ投資計画を発表したメキシコや、IMFが2020年の成長率見通しを上方修正したブラジルなどが堅調でした。

## 【日本REIT】

三鬼商事が発表した東京都心オフィスの空室率が上昇し、オフィスREITが軟調だったことで上値が抑えられました。当期間中の日銀の買い入れはありませんでした。

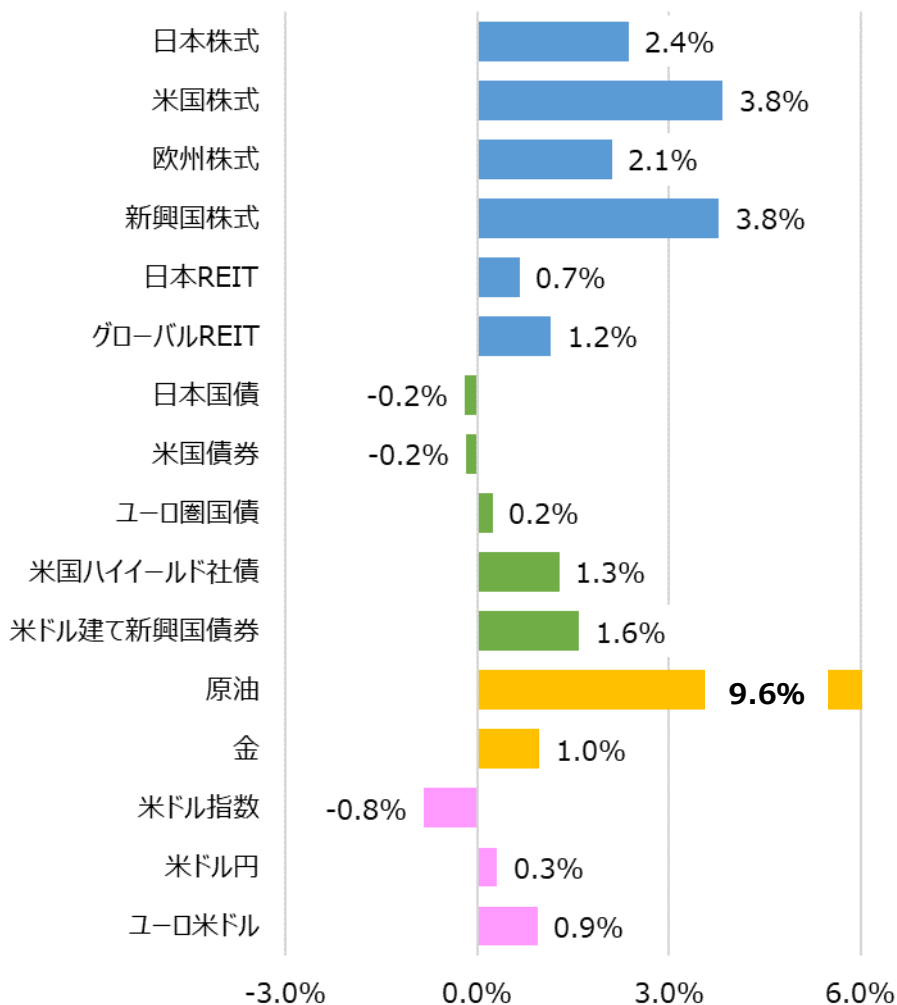
## 【グローバルREIT】

米景気対策や、FRB・ECBの追加緩和策への期待が相場を支えましたが、前週に大幅高となっていたため、米国中心に利益確定売りが出て上値が重くなりました。米国ではヘルスケアやリテール用REITが軟調でした。



# Weekly Market Review

期間：2020年10月5日～10月9日



## 【日本国債】

投資家のリスクテイク姿勢の強まりから軟調でした。日銀の国債買い入れオペで売り圧力の弱さが示されたことや、5年国債入札で旺盛な需要が確認されたことで下値は限定的でした。

## 【米国債券】

「大きな政府」を志向する民主党が議会選も含めて圧勝するとの見方から、国債増発による金利上昇圧力の強まりが意識されました。FOMC議事要旨では量的緩和策の拡充について積極的な議論がなされなかったことが示され、投資家の失望を誘いました。ただ、ニューヨーク市の一部で事実上の都市封鎖措置が再導入されたことや、雇用動態調査（JOLTS）で非農業部門求人件数が4か月ぶりに減少したことなどから下値が支えられました。

## 【ユーロ圏国債】

2日発表のユーロ圏消費者物価指数総合は前年比でマイナス幅が拡大し、コアは伸びが鈍化しました。ECB理事会議事要旨では、ユーロ高がインフレ見通しに悪影響を与えることを踏まえ、必要に応じ適切な措置を取ると強調されました。ECBによる追加緩和期待やコロナ感染者数の急拡大が相場を支えました。

## 【米国ハイールド社債】

株式市場が好調だったことからハイールド社債も上昇しました。原油価格の上昇からエネルギー関連銘柄の上昇幅が大きくなり、消費や通信関連銘柄も堅調でした。

## 【新興国債券（米ドル建て）】

米国国債との利回り格差（クレジット・スプレッド）が縮小し、堅調な展開でした。メキシコやオマーン、ナイジェリアなどの産油国が好調だった一方、9月末に格下げされたスリランカが引き続き軟調でした。

## 【コモディティ（金・原油）】

金は、米ドル安基調や米実質長期金利の低下から堅調に推移しました。米名目長期金利は上昇しましたが、インフレ期待の高まりが実質金利の上昇を抑えました。原油は、ハリケーン「デルタ」のメキシコ湾岸接近で石油精製施設が稼働を停止したことや、ノルウェーの海上油田がストライキで稼働を停止したことなどから供給不安が相場を押し上げました。

## 【米ドル指数】

投資家のリスク選好が強まったことから米ドルは軟調でした。日米金利差の拡大観測から対米ドルで円も売られ、英EU間の離脱条件交渉が前進するとの観測が支えとなってユーロやポンドが上昇しました。米中貿易摩擦の沈静化見通しから新興国通貨も堅調でした。



## 当資料のお取り扱いに関する留意事項、使用している指数等について

当資料は情報提供を目的としてアストマックス投信投資顧問株式会社※が作成した資料であり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。当資料は当社が信頼できると判断した情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料中に記載した内容、数値、図表等は、当資料作成時点のものであり、今後、予告なく変更することがあります。当資料で使用している各指数に関する著作権、知的所有権その他一切の権利はそれぞれの指数の開発元もしくは公表元に帰属します。なお、当資料のいかなる内容も将来の投資成果を示唆ないし保証するものではありません。

※2021年3月8日付で商号を「PayPayアセットマネジメント株式会社」に変更する予定です。

日本株式：TOPIX（東証株価指数）

米国株式：S&P500種株価指数（米ドルベース）

欧州株式：STOXX Europe 600種株価指数（ユーロベース）

新興国株式：MSCI新興国株式指数（米ドルベース）

日本REIT：東証REIT指数

グローバルREIT：FTSE EPRA/NAREITグローバルREIT指数（米ドルベース）

※文中に世界株式とある場合、MSCI All Country World Index（新興国を含む全世界株式指数、米ドルベース）をさします。また、新興国通貨とはMSCI新興国通貨指数（対米ドル）をさします。

日本国債：FTSE日本国債指数

米国債券：ブルームバーグ・バークレイズU.S.アグリゲイト・フロートアジャステッド指数（米ドルベース）

ユーロ圏国債：ブルームバーグ・バークレイズ・グローバルアグリゲイト・ユーロガバメント・フロートアジャステッド指数（ユーロベース）

米国ハイイールド社債：ICE バンク・オブ・アメリカ・メリルリンチ米国ハイイールド・コンストレインド指数（米ドルベース）

米ドル建て新興国債券：J.P.Morgan 米ドル建て新興国債券コア指数（米ドルベース）

原油：S&P GSCI原油エクセスリターン指数（米ドルベース）

金：S&P GSCI CME金エクセスリターン指数（米ドルベース）

米ドル指数：ICE USが算出・公表する米ドルインデックス

出所：ブルームバーグ